

こんな活動です

KCDプロジェクト 教科書は「地域の人々」 学びの場は「地域」

岐阜県郡上市		●活動名 郡上北高 地域とともに発展（KCD）プロジェクト				●関係する学校名 岐阜県立郡上北高等学校					
協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	12 学級	のべ児童・生徒数	272 人	●体制図			
活動区分	—	地域課題解決学習		地域人材育成		—					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	—		配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	—		配置人数				4人
学校運営協議会	指定・設置日		平成30年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数	—	企業・NPO等との連携				有
参考URL	https://school.gifu-net.ed.jp/guivyokita-hs/										
●連絡先	岐阜県立郡上北高等学校				☎ 0575-82-2073						

●活動の概要・経緯
郡上北高校は、平成30年度に創立70周年を迎えた。地域からの強い要請を受けて創立された本校にとって、地域社会とのつながりは学校運営上欠くことのできない重要な要素である。平成22年度より、郡上市立白鳥中学校との連携型中高一貫教育を開始し、平成28年度には、県の「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」の指定を受けて、その取組の中核として「KCDプロジェクト」をスタートさせた。プロジェクトに次の4つの柱(※)を据えて、地元公民館・郡上市雇用対策協議会・郡上市市民協働センター等の関係機関の支援を受けながら、活動のさらなる発展を推進している。
(※)4つの柱①地域行事参画②地域キャリア教育③地域中高連携④広報活動

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域行事参画…◇「奥美濃カレーで町おこし隊」地元の事業者協同組合である奥美濃カレーファミリーと高校生が手を取り合って、近隣各所でのイベントにて奥美濃カレーを販売。◇「公民館応援隊」地元の公民館長の依頼を受けて、園児・小学生を対象としたイベントの企画と運営。◇「あゆパーク商品開発」清流長良川あゆパークと地元食材を使った商品を開発し、イベント等で販売。◇「白鳥町少年文化のつどい」地元の小中高生が集まり、地域に伝わる伝統芸能(太神楽など)や文化活動を発表。高校生は中学生との吹奏楽合同演奏や会の運営・進行役を務める。
- ②地域キャリア教育…◇「郡上未来塾」郡上市雇用対策協議会及びハローワークと連携して、3年生就職希望者に対する地元事業所の紹介及び大同メタルや八幡信用金庫などの地元企業経営者等との座談会開催。◇「Good郡上プロジェクト」市民協働センター主催のプロジェクトに参加。地域の課題に目を向けて、ICTを活用したプレゼンテーションを作成し、解決策を提案。◇「クエストエデュケーション」与えられたミッションの答えを独自の視点で探究しプレゼンする全国大会「クエストカップ」に毎年出場し、入賞経験もあり。地域課題解決に向けた人材育成のため、探究活動を充実。
- ③地域中高連携…◇「中学生授業支援」「中学生夏休み学習会」高校生が連携中学校生の授業や学習を支援。
- ④広報活動…◇「北高NOW」公式HPで教育活動を積極配信。◇「KCD実践発表会」毎年2月に開催。

【実施に当たっての工夫】

- 「地域行事参画」「地域中高連携」「広報活動」については、教頭を総括として各教科代表からなる『学校改革プロジェクト委員会』を組織して、他の教員も巻き込みながら活動を推進している。
- 「地域キャリア教育」については、進路指導部を中心に関係機関と連絡を密にとり活動を進めている。
- 中高連携だけでなく、小中高を通して学びの連続性を構築するために、小中高教員参加による授業研究会を開催している。
- 「地域行事参画」については、特別活動部でボランティア募集を一元的に広報し、多くの生徒参加を促している。また、1年次からの活動参加が重要であるという観点から、学年会を中心に1年次生への呼びかけを積極的に行っている。
- 公民館・市民協働センター・奥美濃カレーファミリーに加えて、地元神社からも秋の例祭への参加依頼など、地域からの協働活動への提案も多くある。令和2年度より観光・ビジネスコースの授業科目に地域協働活動を組み入れることを検討している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 学校評価アンケート(生徒対象)の結果、KCDプロジェクトの内容を理解している生徒は、年々増加している。また、学年が上がるにつれて、活動に積極的に参加する生徒も増加している。
- 連携している中学校、公民館、市民協働センター、雇用対策協議会等の担当者から、本校生徒の取組について高い評価を得ている。さらに活動の範囲を広げていきたいという声も上がっている。
- 1年次から積極的にプロジェクトに参加した生徒が、地域貢献活動型入試制度を利用して大学へ進学した。卒業後は、地元へ戻り地域の発展に貢献したいという希望を持っている。

● その他

令和元年度入学生よりコースを再編成し、単位制を導入した。デュアルシステムを利用して、専門学校での技能実習及び地元企業での長期就業体験実習、地元病院での介護職員初任者研修を受講できる学校設定科目を設置し、令和2年度より運用する。



「あゆパーク」で地元食材を使った商品を開発し、イベント等で販売。



「食の祭典 in 郡上」で「奥美濃カレー」を販売